春光懇話会会報

Wave21

2026.2

No.195



www.shunko.jp

トップインタビュー

春光会22社の社長にご登場いただき、ご自身のプロフィールを語っていただきます。生い立ち、お若い頃の思い出、会社生活のこと等々、いろいろとお伺い致します。
今回は日立建機 先崎社長にインタビューさせていただきました。よろしくお願い致します。



日立建機
執行役員社長兼COO　先崎　正文

生年月日　1965（昭和40）年7月16日
出 身 地　千葉県柏市
出 身 校　東京工業大学大学院　機械物理工学専攻
略　　歴　1991年　日立建機　入社
2012年　日立建機ユーラシア製造LLC
取締役社長
2018年　当社執行役 営業本部長
2021年　執行役常務 経営戦略本部長
兼事業管理本部長
2022年　執行役専務 経営戦略本部長
2023年　執行役社長 COO
趣　　味　ランニング、ゴルフ

――どのようなお子さんだったのでしょうか？

家にはほとんどいないやんちゃなタイプだったと思います。よくみんなでサッカーや野球などをしていました。地元の中学校に進んでからは陸上部に入りました。短距離も長距離も好きで、今でも走るのが好きです。妻は中学校の同級生で、そのころの私を知っているのですけれども、とても声をかけられるような感じではなかったと言っています。いつも教室の後ろでふんぞりかえって、先生の話は聞かないというタイプでした。

――どのような高校時代でしたか？

家から少し遠い、青山の私立高校に進学しました。近くの渋谷や原宿でとにかくよく遊びましたね。ずっと規律担当の先生に目をつけられるような、真夏でも学ランを着ているような学生でした。部活動は特にやっていませんでしたが、小さなころから体を動かすことが好きで、何でもできたので、バレーボールやサッカーの試合があると頼まれて、何回か参加しました。

――大学受験はどうでしたか？

高校3年生の途中まで法学部に行こうと思っていました。しかし、あるとき物理が好きになって、理系に進路を変えました。なぜ物理が好きになったかというと、もともと数学は好きで、論理の体系がきちんとしているところに魅力を感じたのだと思います。正しく論理を積み重ねていけばゴールにたどりつく、という感覚が好きでした。表面的な現象だけでなく、根本的な原因まで掘り下げて課題を見つけ、その解決策を考える。このアプローチは、仕事含めあらゆる場面で共通して重要だと思います。

理系に進路を大きく変え、そこから勉強しましたが、やはり1年では間に合わなくて浪人しました。そして翌年、東京工業大学に入学しました。機械的に動く大きなものに興味がありましたので、専攻は機械系4類でした。それが現在の仕事につながっています。

――就職活動にはどのように取り組まれましたか?

大学3年生のころ活発に動きました。最終的には大学院まで行ったのですが、就職活動が3年間できるとの意識の中、できるだけ多くの会社を見に行くチャンスができました。結果として50社以上の機械製造を中心とする企業を訪問することになりました。北海道から九州まで巡って製造現場を見続けているとその企業のカラーが何となく分かります。その中で、日立建機は他と違っていました。OBの方と話したり工場見学をしたりすると、自分が働くことをすごくイメージできたのです。そして、この会社はこれから海外にも広がっていくのだなと思いました。もともと現場志向、海外志向だったので、この会社でなら国内でも海外でも自分は元気に働いていけると確信しました。

――入社後、配属の希望などはあったのでしょうか？

「製造現場が好きなので、開発や設計ではなく製造現場に近いところにしてほしい」と希望しました。その結果、生産技術部に配属されました。生産技術は設計図面が製品になるまでのすべてに関わります。たとえば、物資の調達や運搬をどうするか、どのように製造工程を改善すればもっと品質向上できるのか、といったことなどです。また、製品の増産を計画する場合も、国内でつくるのか海外なのか、どんな工場にするのか、といった計画・実行も生産技術が中心となります。私の現場

志向、海外志向にも非常にマッチした部署であったと思います。そして、工場の設営や製造ラインの導入などは大きな設備投資ですので、その投資を経営的に考えなければいけない。結果として経営に近い視点も鍛えられたと思います。

――若いころから海外で働かれたそうですが、どちらに赴かれたのですか？

私は1991年の入社ですが、1994年からイタリアに行きました。ある日、担当していたラインで製造していたパーツを、イタリアのメーカーから購入することになったので、その製造ラインをなくす、という会社の決定を伝えられました。そのときに、後に社長になった当時の部長から「俺たちが負けるはずはない。なぜ負けなければいけないのか、現地に行って調べてきてほしい」と言われました。それが初の海外赴任で、そのまま約3年間駐在しました。

そして、1997年に帰国した後も主に海外の工場関係の仕事に携わりました。中国の工場を拡張したり、アムステルダムに工場をつくったり、インドの工場にも携わりました。現場で話し合い、新たなことを提案して実現していくという、とても楽しい仕事でした。2008年からは生産技術センタ長として土浦工場を含む茨城県内の5工場の合理化や震災対応を指揮しました。約15年間、世界各国の大きな工場の立ち上げや拡張には、すべて携わっています。

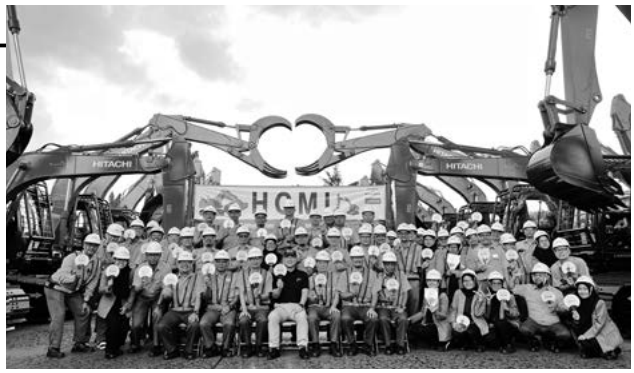
――約15年間の工場関連業務の後は、どのようなことに取り組まれたのですか？

その後、2013年からはロシアでの工場立ち上げを任命されて、約5年半単身赴任しました。モスクワから200キロほど北西にあるトヴェリ州という、日本人は誰もいないところでした。工場の立ち上げ後は「販売会社も含めてロシアの事業全体を見なさい」と命じられて、2017年から販売会社も併せた現地法人の事業部長を任されました。そのあたりから営業職も含めた事業を見るようになりました。

2018年に帰国し今度は本社の営業本部長として各国の販売代理店とコミュニケーションを取りながら、いま本当に売れるものは何かを模索したり、世界各地の事業をどのようにコントロールするのかなどを考え、実践するようになりました。

――あのときがターニングポイントだったという出来事は？

イタリア駐在ですね。そのとき感じたことが2つあって、1つは人にミッションを与えることの重要性です。まだ経験の浅い私に現地の実情を調べさせるというアサイメントは決断力のいるものですし、任された私もその期待に応えようと思いました。





▲P.T.日立建機インドネシアへの訪問（2025年）

◀かすみがうらマラソン（2025年4月）

もう1つは、現地の文化や風土をその国で生活する中で感じ取ることの大切さです。我々はグローバル企業ですから、日本を外から見る機会を得ることはとても大切なのです。「最前線が全ての源である」と考え、これまで約85カ国の製造・販売拠点、鉱山・建設現場に足を運び、お客さまや社外パートナー、現地社員とのコミュニケーションを大切にしてきました。

――リフレッシュのために、どのようなことをされていますか？

やはり運動が好きなので、休みの日は走っています。頭の中を空っぽにできるので貴重な時間ですね。また、毎年4月に「かすみがうらマラソン」というイベントがあって、当社はそのメインスポンサーですので、ここ数年連続で参加しています。あとは、家族でクラフトビールを飲むことですね。週末に家族で出かけて、クラフトビールを楽しんでいます。きょうはあっちへ行こうか、こっちもいいねと、それがリフレッシュになります。

――若い皆さんに期待したいことは何でしょうか?

若いときは感覚が非常に鋭いと思います。その感覚でいろんなことを自分自身でつかみとってほしいと思います。フロンティアスピリットを持ち続け、お客さまがそこにいそうだと思ったら現地に行って、ああ、こういう世界なのだなということを感じ取る。そういうことにどんどんチャレンジして、次の行動につなげていく。ネットは便利ですが、二次元を使いこなし、最終的にはリアルを確認することで完結してほしい。ぜひリアルの世界を楽しんでほしいですね。

令和8年　春光懇話会賀詞交換会

1月9日(金)ホテルニューオータニ「芙蓉の間」において開催されました。会員会社111社の役員など約190名が出席されました。



ご挨拶

春光会・春光懇話会会長
ＪＸ金属　会長
村山　誠一

本日はご多用のところ、春光懇話会賀詞交換会に多数の方々にご参集賜り、誠にありがとうございます。会員の皆様方には、各社社員およびご家族ともどもお健やかに新春を迎えられたことと心よりお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、世界においては、間もなく4年となるロシアによるウクライナ侵攻は、依然として終息が判然としない状況が続いており、中東における紛争やタイ・カンボジアの軍事衝突など、戦火の絶えない世界情勢の中、日中間の緊張も高まりました。さらに、年明けの米国によるベネズエラ攻撃など、中南米でも軍事リスクが顕在化しています。ビジネス面では、米国の関税政策には、多くの国や企業が影響を受けており、中国経済の低迷にも注意が必要な状況が続きました。世界での出来事は争い事や暗いニュースばかりではありませんが、企業経営においてリスクマネジメントの重要性も踏まえ、振り返らせていただきました。

一方、国内に目を向けると、毎年の様に、日本各地において記録的な猛暑に見舞われ、局地的な豪雨や山火事も含めた大規模な火災も多く発生しました。また、クマ被害の急増など新たな課題も生じました。社会インフラの老朽化による事故も各地で発生し、個人としても、また企業としても災害に備えることの重要性を再認識させられたと感じています。

政治では、昨年10月に自民党・日本維新の会の連立合意のもと、初の女性首相となる高市連立政権が発足しました。政治の安定なくして経済の発展はありませんので、政府にはしっかりとしたかじ取りをお願いしたいと思います。

その他、大阪・関西万博の盛り上がりやノーベル生理学・医学賞および化学賞での二人の日本人の受賞、アメリカ大リーグでの大谷選手の活躍などは、大変喜ばしい、とても明るいニュースでした。

国内経済は、昨年10月には半導体・AI関連企業が牽引する形で、日経平均株価が初めて5万円を突破しました。また、高市新内閣が、責任ある積極財政を打ち出し、成長戦略の一環として、新た



賀詞交換

に「重点投資対象17分野」を選定しましたが、具体的な予算措置やロードマップの内容につきましては、期待しつつも注視していくことが必要だと思います。一方、ガソリン税の暫定税率の廃止も含め、様々な物価高対策が打ち出されたものの、為替は円安での高止まりが続いています。円安については、メリット・デメリット、短期・長期の功罪はあるものの、目下のところ、輸入コスト増大のデメリットがより強く指摘されているようにも感じています。

物価高の継続や慢性的な人手不足などは、引き続き成長の足かせであり、効果的な対策が必要です。また、ランサムウエアを用いたサイバー攻撃もその頻度と規模の点で脅威が増しており、その対策も企業が抱える重要な経営課題と再認識されつつあります。

以上のような様々な環境の変化や課題がある中で、会員各社の皆さんが発展・成長していくためには、生成AIの活用なども含めたデジタル化を加速させつつ、時代とともに生み出されるニーズに沿った新たなサービスやプロダクトの創出が不可欠です。

そのような観点からも、春光各社の取り組みの共有や、人的なつながりを最大限に活用し、新たな価値創出のきっかけや気付きを得ていただきたい、願わくは、企業間のコラボレーションなどにもつなげていってほしいと思っています。

そのために、春光会・春光懇話会の活動では、「社長会」や「事業協議会」といった経営幹部の集まりをはじめ、「営業部会」や「総務部長会」など様々な階層での交流を促進する場が用意されています。特に、本日ご出席の経営幹部の皆さまにおかれましては、これらの活動に積極的にご参加いただき、気軽に話しのできる、また相互に相談できる関係性を構築していただくとともに、部下の方々の各会合への参加の働きかけを引き続きお願いいたします。

本日の賀詞交換会には、六つの地域の春光懇話会会長にもご出席をいただいております。遠路にもかかわらず誠にありがとうございます。国内52か所に広がります地域春光懇話会の運営につきましては、地域会長の方々のご指導により特徴ある活動をいただいております。また、海外では、28か所の海外春光懇話会も、国内以上に活発に交流をされております。ぜひとも、地域ならではの創意を凝らした取り組みにより、さらなる活性化をお願いしたいと思います。

今年は午年です。午年は勢いとエネルギーに満ちて活動的になる年と言われます。この一年、春光各社が成果を発揮し、勢いよく成長する年になれば幸いです。最後になりましたが、本日ご参集の皆様方のご健勝と会員各社のご繁栄をお祈り致しまして、新年のご挨拶にかえさせていただきます。



地域春光懇話会会長紹介



乾杯
春光会・春光懇話会副会長
日立製作所
東原会長

＜次第＞　司会　新野事務局長

1. 挨拶　春光会・春光懇話会会長
　　ＪＸ金属　村山会長
2. 紹　介　【地域春光懇話会会長】
　秋田春光懇話会　秋田日産自動車
　　三浦会長
　山形県春光懇話会　山形日産自動車
　　小関社長
　茨城春光懇話会　茨城日産自動車
　　加藤社長
　埼玉春光懇話会　UDトラックス
　　立川関東地域統括責任者
　静岡県春光懇話会　静岡日立　幾永社長
　兵庫春光懇話会　兵庫日産自動車
　　酒井社長

―――賀　詞　交　換―――

3. 乾杯　春光会・春光懇話会副会長
　　日立製作所　東原会長

新製品・新商品　紹介

ニッセイコム

基幹業務システム「GrowOne」シリーズの製品ロゴをリニューアル

ニッセイコムは、GrowOneシリーズのコンセプトを「お客様のビジネス成長を第一に考えた価値あるシステムでありたい」とし、製品ロゴのデザインを統一しました。今後は、開発プラットフォームを統一していくことで、パッケージソフトウェア開発の生産性向上を図りながら、お客様にとって価値あるシステムを提供してまいります。

■ 背景

2009年9月にERPパッケージ「GrowOne Cube」を発売してから16年にわたり、ニッセイコムはお客様の業務課題解決のため、業務システムを開発・提供してまいりました。

2025年4月には、新たに「GrowOneSupreme」シリーズをリリースし、製品の強化を図りました。

このたび、GrowOneシリーズのコンセプトを「お客様のビジネス成長を第一に考えた価値あるシステムでありたい」とし、製品ロゴのデザインを統一しました。

＜GrowOneSupremeシリーズの製品ロゴ＞

GrowOne Supreme

＜新旧デザイン比較＞



■ 新しいロゴのご紹介

新しいGrowOneシリーズのロゴは、「ニッセイコム」のコーポレートロゴの特徴である「斜めライン」をそのまま生かし、コーポレートロゴに込めた“右肩上がり成長を続ける”という想いをGrowOneでも表現しています。

また、コーポレートカラーの「Future Blue」「Heartful Red」「Growing Green」を 大きく配置することで、コーポレートブランドとの一体感を示すとともにGrowOneがニッセイコムのメインプロダクトであることを強く表現しています。

NISSEICOM　GrowOne

コーポレートロゴとGrowOneロゴ

■ GrowOne シリーズのご紹介

＜ ブランドサイト ＞

GrowOneシリーズの概要や対応業務・業種については、ブランドサイトをご覧ください。

https://www.nisseicom.co.jp/growone/

＜ GrowOneを動画で知る（各15秒）＞

GrowOneシリーズが対応している基幹業務の領域について、15秒でご紹介します。

リズム編



https://youtu.be/tJ4ZK0jXRsk



クイズ編

https://youtu.be/OZrktm2vMWc

営業部会だより　詳しくは営業部会HPをご覧下さい
https://www.shunko.jp/eigyo/eigyobukaitop.html

第26回春光懇話会ビジネス交流強化キャンペーン開催

『春光クイズ』に17,885名様ご応募



第26回目を迎えました「春光懇話会ビジネス交流強化キャンペーン」は2025年10月から12月までの3か月、営業部会全会員75社参加により実施しました。

キャンペーンスタートに際して9月17日には会員が一堂に会して合同展示会を開催しました。展示会は18社が出展し、企業PRは4社、170名の来場客を迎えました。

合同展示会では会員各社が自社商品のプレゼンを行い、各社商品をお互いに知る機会になりました。その結果、新たな交流が生まれるとともに多くのビジネス成果につながりました。さらに、合同展示会後にはキャンペーン決起大会を懇親会を含めて実施し、会員同士の情報交流につながりました。

また、キャンペーン期間中には会員会社からの提供賞品が当たる春光クイズを例年通り行いました。このクイズは会員会社従業員ご本人とご家族の皆さまにもご応募をいただくことにより「春光懇話会認知度向上」を目的としています。

今回の応募件数は最終的に17,885件となり、春光懇話会認知度は向上しているものと思います。社内で情宣をしていただいた皆さま、併せてご応募をいただきました皆さまに感謝申し上げます。

12月5日には事務局にて抽選会を行い、会員各社からご提供いただいた286本の賞品の当選者が確定しました。ご当選された皆さま、誠におめでとうございます！今年もご応募お待ちしています。

営業部会ではキャンペーン活動とは別に『ビジネス協業会』を組織して年間を通じて営業活動を強化する取り組みを行っています。詳細は事務局までお問い合わせください。今後とも活動を活性化させて営業成果につなげたいと思います。最後になりますが、営業部会活動への引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



12月5日実施された抽選会

ＪＸ金属が優勝

第63回 春光懇話会ゴルフ選手権

11月29日（土）小山ゴルフクラブにおいて第63回春光ゴルフ選手権が開催されました。本選手権はスクラッチ競技の会社対抗団体戦（4名/社）で2019年9月以来、昨年につづき4社出場により実施されました。

結果はＪＸ金属が選手4名の活躍（個人戦：準優勝、3位、4位、5位）により見事2年連続優勝を飾りました。また、準優勝も2年連続で損害保険ジャパンとなりました。

当日朝は少し肌寒さを感じる天候でしたが、雨に降られることが無く、参加者の熱気により、寒さも吹っ飛ぶ状況でした。また、プレー中はもちろんのこと、表彰式でも参加各社の交流が大いに図られ、大変盛り上がりました。

スクラッチでのゴルフコンペはめずらしいので参加メンバーからは大変好評でありました。来年以降も一層の熱戦が期待されます。

優　勝	ＪＸ金属	384ストローク
準優勝	損害保険ジャパン	406ストローク


参加者


優勝のＪＸ金属チーム


準優勝の損害保険ジャパンチーム

営業部会だより　詳しくは営業部会HPをご覧下さい
https://www.shunko.jp/eigyo/eigyobukaitop.html

ビジネス協業会活動報告

2025年11月7日（13時ー17時）に営業部会ビジネス協業会を開催しました。会合では参加14社が2つのグループに分かれて5月会合以降の活動報告、新たなビジネス案件紹介、日頃の取組内容など具体的な内容紹介を行い、その後にビジネス協業展開に関して活発な意見交換をしました。

『ビジネス協業会』は毎年3か月間（10月ー12月）実施する『春光懇話会ビジネス交流強化キャンペーン』とは別に通年で営業活動を強化する組織です。

会のコンセプトは①会員各社のビジネス協業②会員会社を互いに知る③自社営業のパイプを太くすることであり、活動の際には特に意識して取り組んでいます。

また、活動は2019年からスタートしました。当初は会員会社が自社のビジネス活動を行う際に他社商品も取引先に対して併せて紹介する地道な活動からスタートしましたが、現状では活動において会員各社間でビジネス上のコラボができており、各社の成果が出ています。

協業会会合は現状では参加会員数21会員で年間2回（5月、11月）に開催していますが、回数を重ねることで参加各社が会合に積極的になり、様々なアイディア、意見が出るようになり会合自体が活性化しています。

今後も新たなビジネス展開手法を会員間で実践し、併せて会員増強を行い、春光懇話会活動の大きな柱にしたいと考えています。また、春光懇話会会員のメリットを常に意識し、新たな活動に取り組みたいと思います。

【協業に向けたディスカッション】
～協業に向けたアイデア創出のため、
グループ別ディスカッションを実施～

①全体ディスカッション概要
- 企業PR2社
- 企業PR15分討議15分
- 討議時間は30分。（各社5分PR）

②グループ別ディスカッション
- 各グループ代表企業PR 2社
- 代表PR 10分　討議10分　まとめ10分

●Aグループ　7社
PCT（現 BREXA PCT）
カナデビア
SOMPOケア
日産自動車
ＭＨＣ環境ソリューションズ
サッポロビール
日立社会情報サービス

●Bグループ　8社
日立産機グリーンテック
関東日立
SOMPOリスクマネジメント
プロテリアル
NIPPO
ニッセイコム
日立ドキュメントソリューションズ
プロスタッフ


ビジネス協業会全体風景


販売企画推進委員
朝長委員長挨拶


Aグループディスカッション


Bグループディスカッション



そろそろ結婚をとお考えのみなさま
結婚適齢期のご家族をお持ちのみなさまへ



春光懇話会ファミリークラブ

春光グループのみなさまの“結婚相談所”です

●入会手続きは簡単です。まずは資料請求を!!

●春光懇話会ホームページにアクセスしてみてください。

安心できる出会いを提供します。

安心その1

運営は、春光会とそのグループ会社で構成する春光懇話会です。

安心その2

会員を春光グループに関わる方に限定しています。

安心その3

春光グループ各社からの維持会費で運営していますので、会員個人の負担は、入会時の１万円と成約時の７万円です。

安心その4

資金面などで各社との関係は密接ですが、会員個人のプライバシーは絶対厳守です。当然、会社にお知らせすることは一切ありません。

安心その5

入会から、お相手の紹介、お引合わせ（お見合い）、交際、結婚のご意志確認まで、女性カウンセラーが、会員の意思を尊重しながら、親身になってお手伝いします。

●入会から成約までのステップ

資料請求 ➡ 入会手続き ➡ カウンセリング ➡ お相手紹介 ➡ お見合い ➡ 交　際 ➡ 成約、ゴールイン



営業日の変更のお知らせ

2023年４月から春光懇話会ファミリークラブの営業日が以下の通り変更となります。
会員のみなさまには、何卒ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

営業日時：火曜日・水曜日を除く平日および土・日曜日
（午前10時～午後5時）

休　　日：火曜日・水曜日と土・日曜日以外の祝日
（毎週火曜日に加え、毎週水曜日も休日に変更となります）



春光懇話会ファミリークラブ

〒160-8330　新宿区西新宿2-2-1
京王プラザホテル南館9階
TEL&FAX 03(3344)0410
www.shunko.jp/family/family.html

●春光懇話会ファミリークラブは、春光会22社とそのグループ会社89社が支えています。

お知らせ

●春光懇話会会員会社

○社名変更

BREXA PCT←PCT（26.1.1）

○代表者交替

BREXA PCT

吉村真悟←足立真哉



情報アラカルト

りんかい日産建設

RN建設株式会社へ社名変更のお知らせ

RN建設株式会社
RN CONSTRUCTION CO., LTD.

2026年4月1日、りんかい日産建設株式会社は「RN建設株式会社」に社名が変わります。

創業100周年を機に、当社の企業理念である「人·社会・環境の共生」の実現に向け、新たな一歩を踏み出します。次の100年へ、当社の建設技術で笑顔を創出します。今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

100th
READY FOR NEXT 100

カナデビア舞鶴工場と舞鶴のまち

カナデビア舞鶴工場は、舞鶴市余部下の中舞鶴・東舞鶴の2拠点と福井県高浜町の若狭事業所からなる3拠点で構成されています。その原点は1903（明治36）年に開設された舞鶴海軍工廠にあり、100年以上もの間、地域とともに歩んできました。かつては日本海側唯一の8万重量トン級造船能力を持つ大型造船所として、防衛省や海上保安庁向けの艦船、商船の建造・修理を担い、日本の海洋産業を支える重要な役割を果たしてきました。2002年の造船事業分離以降は、精密機械、産業用電子制御装置、鋳造品を手掛ける機械事業の中核工場として新たな発展を続けています。

舞鶴工場の歩みは、舞鶴という街の風土と密接に結びついています。海と山に囲まれた舞鶴は、港町の活気と静かな自然が調和する土地で、中舞鶴地区には旧海軍施設の歴史を受け継ぐ建物と現代の工場が共存しています。赤れんが建造物が残る街並みは、当社の長い歴史とも響き合い、地域に根ざした企業としての存在感を形づくっています。

また当社は、地域の魅力発信にも貢献しています。代表例が、2013年に始まった「舞鶴赤れんがハーフマラソン」です。護衛艦や哨戒ヘリを間近に眺めながら走る全国唯一の大会として人気を集め、2025年からはコースが刷新され、当社敷地内を走るルートとなりました。サポーティングパートナーとして敷地開放や誘導員配置、沿道での応援など全面的に協力し、当社からも多くの社員が出走。ランナーからは「カナデビアの場所を初めて知った」「応援が多くて力になった」といった声が寄せられ、地域における認知向上にもつながりました。

これからも舞鶴の街の歴史と調和しながら、次の100年に向けて技術革新と地域貢献を続けてまいります。



舞鶴湾（五老ヶ岳より近畿百景No.1の眺め）（写真 舞鶴市提供）



舞鶴のシンボル的存在「舞鶴赤れんがパーク」



西舞鶴にある“東洋のベネチア”とも呼ばれる「吉原入江」



「舞鶴赤れんがハーフマラソン」では工場内がコースに

舞 鶴 工 場：京都府舞鶴市字余部下1180

春光懇話会会報 Wave21
第195号　2026年2月発行
●編集兼発行人／春光懇話会事務局長　新野　聡
●発行所／〒100-8220　東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービル11階　春光懇話会事務局
☎03（4235）6266　FAX03（4235）6267　https://www.shunko.jp
●印刷所／株式会社新寿堂　●レイアウト／エフ・スタジオ